

写真1 車椅子児着用

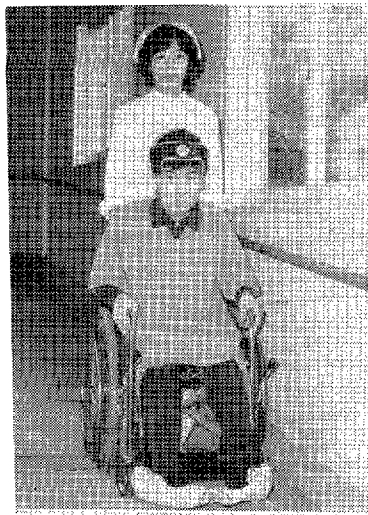


写真2 歩行児着用



も省け、保温の目的にもかなった様であるが、まだまだ完全なものではないので、今後工夫を加えてより効果的な上衣に仕あげていきたい。

28 「ビーチボール使用による睡眠中の体位の考察」

国立療養所川棚病院

辻 純子 松田 善洋

〔はじめに〕

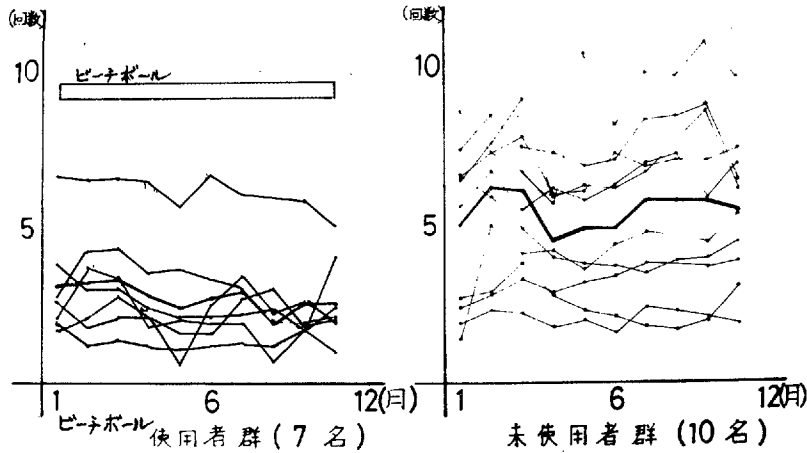
ジストロフィー症の患児は障害度がすすむにつれ、独りで寝返りすら出来ず、夜間の体位変換の介助の回数が増えている。なかには昼間の疲れで体位変換の訴えもなく、同一の体位で睡眠している患児等、様々な就寝状態を観ている。そこでこれ等の苦痛を軽減する目的で就寝時、ビーチボールを使用し、若干の成果を上げたのでここに報告する。

〔対象及び方法〕

対象者はステージ6～8度で夜間体位変換の介助を必要とする患児を、ビーチボール使用者（表-1）群10～18才10名、コントロールとして12才～19才10名を選出、52年1月～10月の期間、

表1

1 晩平均の体位変換回数



毎日夜間の体位変換をチェックし、1ヶ月毎の平均回数について、比較検討してみた。

〔結果〕

表1は、使用者群、障害度平均7度、未使用者群障害度平均7.3度の一晩の体位変換の介助の回数を平均したものである。使用者群では、体位変換の回数が減少の傾向にあるのに対して、未使用者群では増加の傾向が見られた。

表2は、夜間の介助回数を使用者群及び未使用者群のそれぞれについて1ヶ月間の和をとり、使用前の月に対する割合を見たものである。使用者群では介助の回数が減少し、未使用者群では逆に増加している。

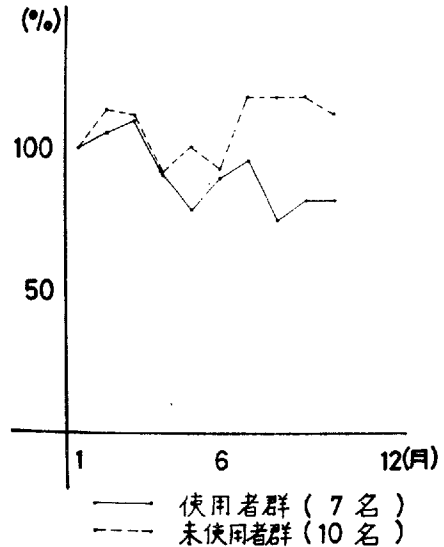
表3は、A君の体位変換の変化を表わしたものでビーチボールを使用して最も著明に成功した症例として取りあげた。使用者群の感想としては、

長所としては (1)楽である。(2)気持ちが良い。(3)同一の体位で長時間眠れる。(4)起床時下肢の痛みが消退、又は軽減した。(5)便秘の緩和等があげられ、欠点としては (1)冷たく感じる(2)汗がベトついて困る。(3)体裁が悪い事で高年令層に敬遠される。等があげられる。

〔考察〕

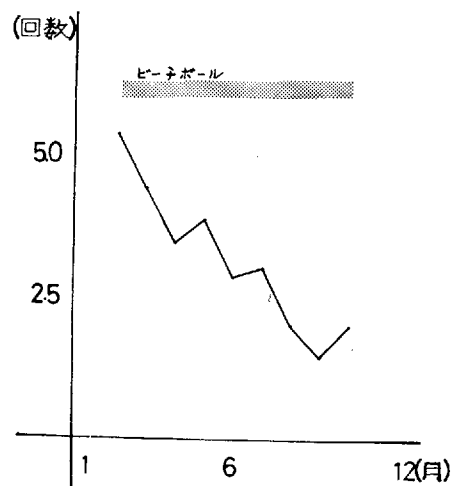
PMD症は、進行するに従い運動能力が極度に低下し自力による体のコントロールが失われる。

月間体位変換回数



更に障害度が進むと夜間の寝返りも充分出来なくなり、介助の回数が増加して来る。私達の調査した結果では、正常な子供の夜間の寝返り回数は10~20回であったのに比べて、介助を必要とする筋ジスの子供の体位変換回数は10回以下であり、明らかに減少している事が判った。以上の事は患児達の睡眠を防げ、患児達に肉体的、精神的苦痛を与えているものと思われる。そこで私達はそれ等の苦痛を少しでも軽減する目的で、種々の器具を使用してみた結果、ビーチボールを使用する事により、成果を上げる事が出来た。10ヶ月間の調査ではあったが、障害度が高度の患児でもビーチボールを長期間使用する事によって、効果が表われているので、今後は、障害度の軽い患児や、成人患者等、対象者を増加させると共に、ビーチボールに類する種々の器具について考案し、その有効性を試してゆきたいと思う。

表3 症例Aの体位変換回数



19 疾患の特色を考慮し、POS一部導入による記録の検討

国立療養所八雲病院

佐藤 リサ子

湯 浅 柄美子

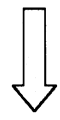
野 口 房子

〔はじめに〕

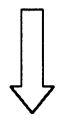
筋ジス病棟においては、医師、看護婦、理学療法士、指導員、保母が、それぞれ専門職の立場で、患児（者）に接している。しかし、ややもすれば、各専門職員間の連携を欠く場合もあり、患児（者）を中心とした、総体的診療、看護、生活指導を目標として、POS方式による、同一記録用紙を導入した。このことにより、患者管理について、記録を通し、より正しく、患児（者）を把握できるようになったので報告する。

検討用紙

1. 問題リスト用紙。
2. 月別経過管理表
3. 入院時記録



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔はじめに〕

ジストロフィー症の患児は障害度がすすむにつれ、独りで寝返りすら出来ず、夜間の体位変換の介助の回数が多くなっている。なかには昼間の疲れで体位変換の訴えもなく、同一の体位で睡眠している患児等、様々な就寝状態を観ている。そこでこれ等の苦痛を軽減する目的で就寝時、ビーチボールを使用し、若干の成果を上げたのでここに報告する。